豊橋市政策研究レター

vol.10

政策立案に向けた基礎調査

2026.3

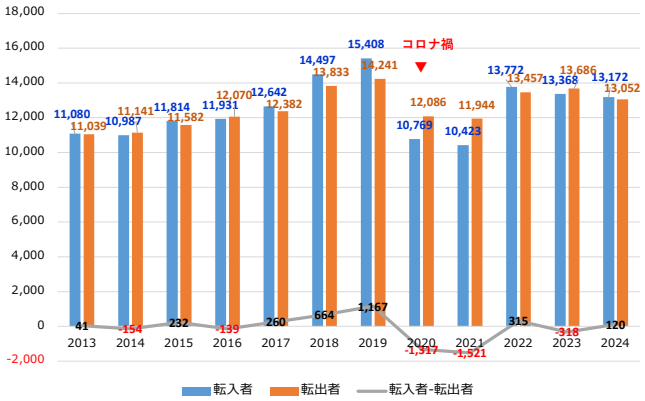
CONTENTS　アンケート調査から読み解く転入・転出の要因分析

発行　豊橋市 政策企画課
TEL/0532-51-2181

1　はじめに

豊橋市では 2013 年以降、転入者数が増加傾向にありましたが、コロナ禍により一時的に約 4,500 人減少しました。収束後は増加に転じたものの、完全に回復したところまでには至っていません。一方、転出者数を見ると同じく 2013 年以降は増加傾向にあり、コロナ禍で一時的に歯止めはかかったものの、その後は再び増加傾向にあります。(図1)

図1:豊橋市における転入･転出者数の推移



資料/豊橋市住民異動調査

本市では令和５年 11 月より、移住・定住の促進に向けた今後の施策検討に活用することを目的に、転入・転出の届出者を対象としたアンケート調査を実施しています。本レターでは、当調査を開始した令和５年 11 月から直近の令和８年２月までの結果をもとに、本市における転入・転出の要因分析を行います。なお、回答者の属性は図２-１及び２-２のとおりですが、回答は任意となるため、公表されている各種統計数値と当調査の回答件数は一致しません。

図2－1:転入･転出アンケート回答者の属性(性別)

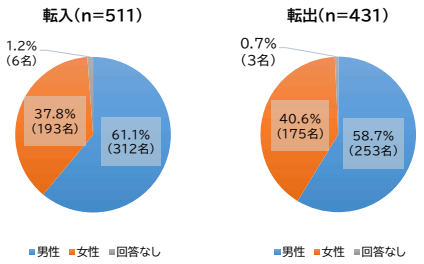
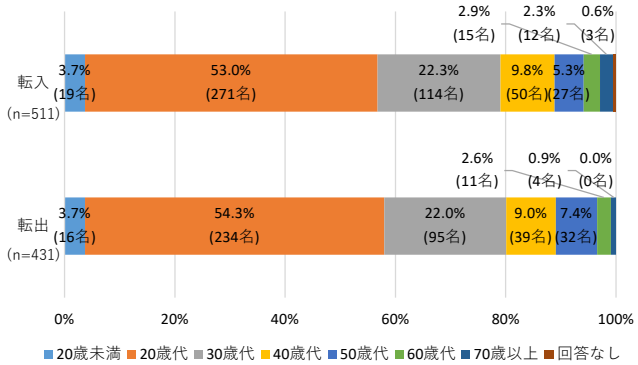


図2－2:転入･転出アンケート回答者の属性(年代別)



2　転入・転出アンケートの調査結果

豊橋市における転入・転出の理由

本市における転入及び転出を見ると、年代や性別に関わらず多くの項目で同程度の回答割合を示しており、うち「仕事の都合」(転入 52.8%、転出 50.9%) を理由とする人の割合が最も高く、次いで「結婚」(転入 8.0%、転出 10.0%)、「住居の都合」(転入 6.5%、転出 6.6%) などライフステージの変化に伴う理由の回答割合が高くなっています。(図3)

次に、男女別に転入理由を見ると、ともに「仕事の都合」と回答する人の割合が最も高くなりましたが、男性は 62.7%、女性は 39.2%と、男性のほうがより顕著な結果となりました。その他の理由として、男性では「結婚」、「生活環境改善」、「通勤・通学利便性改善」、女性では「親や子との同居」、「結婚」、「生活環境改善」、「住居の都合」と回答する人の割合が高くなりました。(図4)

また、転出理由では、転入と同じく「仕事の都合」(男性 55.8%、女性 43.6%) と回答する人の割合が最も高くなっています。(図5)

図3：豊橋市における転入・転出理由

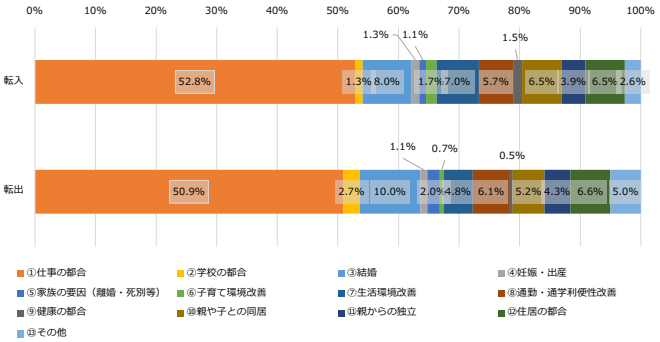


図4：豊橋市への転入理由（男女別）

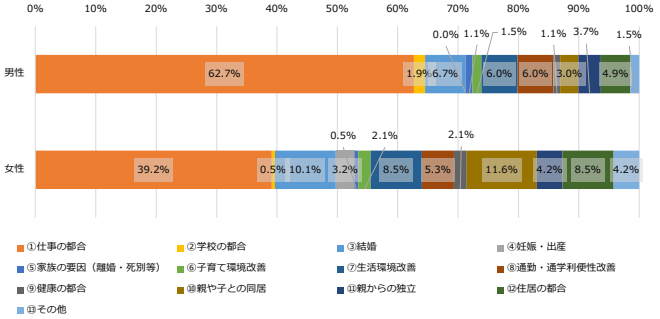
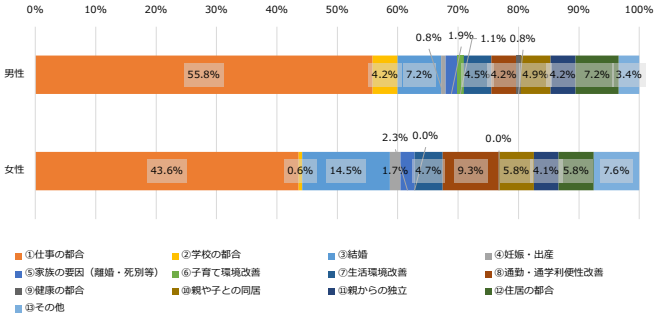


図5：豊橋市からの転出理由（男女別）



年代別の転入・転出の理由

次に、20 歳未満から 40 歳代までの若い世代で男女別に転入理由を見ると、男性では 20 歳代～40 歳代共通で「結婚」、「生活環境改善」、「通勤・通学利便性改善」と回答する人の割合が高くなりました。また、女性では 20 歳代～30 歳代で「結婚」（20 歳代 10.7%、30 歳代 18.8%）、40 歳代で「親や子との同居」（33.3%）の割合が高くなっています。（図6、図7）

一方で転出理由を見ると、男性では 20 歳未満で「学校の都合」（57.1%）が最も高くなりました。20 歳代以上では「仕事の都合」の割合が最も高くなり、年齢に比例して割合が高くなる傾向が見られました。なお、20 歳代から 30 歳代では「結婚」や「住居の都合」の割合が比較的高くなりました。女性では、20 歳代から 30 歳代で「結婚」、「通勤・通学利便性改善」の割合が比較的高く、40 歳代では「親や子との同居」、「住居の都合」と回答する割合が高くなっています。（図8、図9）

図6：豊橋市への転入理由（男性－年代別）

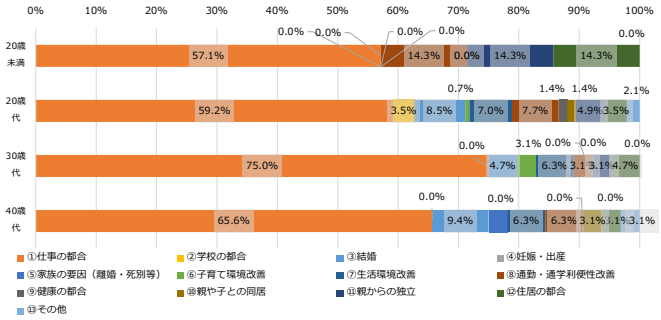


図7：豊橋市への転入理由（女性－年代別）

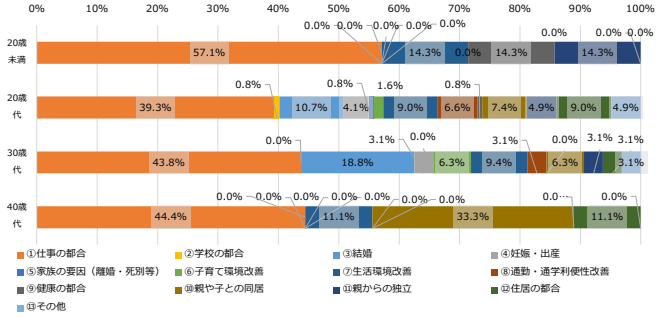


図8：豊橋市からの転出理由（男性－年代別）

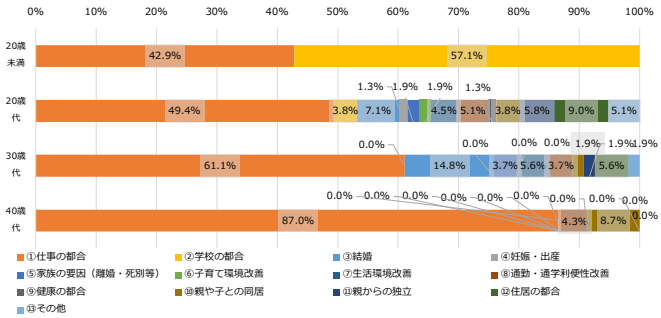
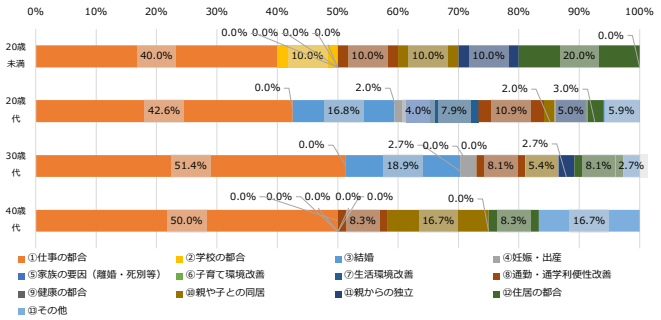


図9：豊橋市からの転出理由（女性－年代別）



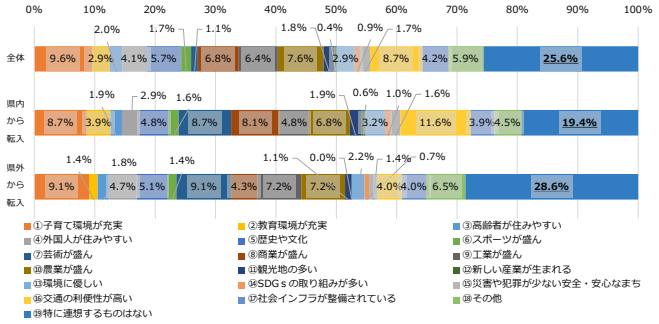
豊橋市の印象と評価

当アンケートでは異動理由に加え、転入者には「転入前の豊橋市のイメージ」、転出者には「豊橋市に住んで良かったところ・悪かったところ」を尋ねています。

県内・県外からの転入ともに、転入前の豊橋市のイメージは「子育て環境が充実」、「農業が盛ん」、「芸術が盛

ん」という回答割合が高く、特に県内からの転入の場合は「交通の利便性が高い」と回答する人の割合が高くなりました。一方で、最も割合の高い回答は「特に連想するものはない」(全体 25.6%、県内 19.4%、県外 28.6%)という結果になっています。(図10)

図10:転入前の豊橋市のイメージ(※転入者のみ)



豊橋市に住んで良かったところは、県内か県外への転出にかかわらず、「交通の利便性」、「街並みや街の雰囲気」、「買い物の利便性」、「公園・自然環境」をあげる割合が高くなりました。年代別に見ると、20 歳未満及び 40 歳代では「買い物の利便性」(20 歳未満 22.2%、40 歳代 25.4%)、20 歳代では「街並みや街の雰囲気」(20.1%)、30 歳代では「交通の利便性」(22.7%) の回答割合が最も高くなっています。(図 11)

一方、豊橋市に住んで悪かったところについても、「交通の利便性」(20 歳未満 26.7%、20 歳代 26.1%、30 歳代 21.3%、40 歳代 25.0%) をあげる回答割合が高くなりました。また、全体的に「道路環境」、「治安」と回答する人の割合が比較的高い結果となっています。(図 12)

図 11:豊橋市に住んで良かったところ(※転出者のみ)

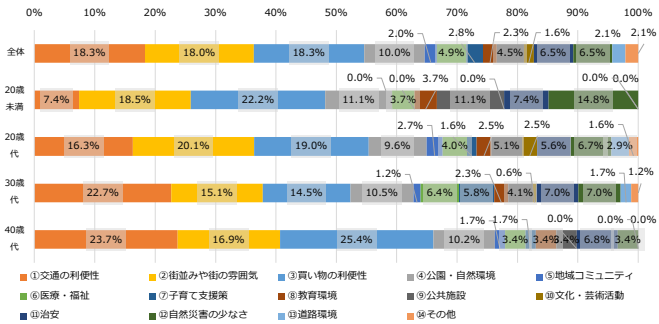
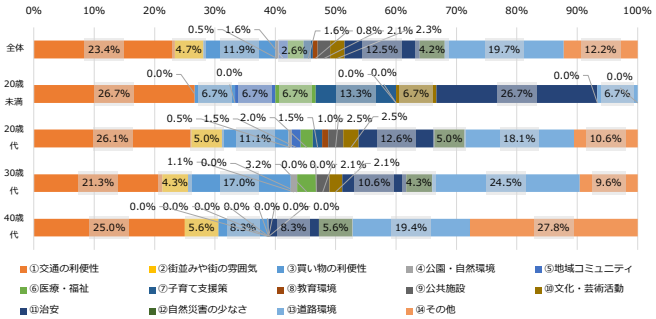


図 12:豊橋市に住んで悪かったところ(※転出者のみ)



3 まとめ

これまでに示した分析から、本市では以下のような現状がうかがえます。

男女ともに「仕事の都合」が転入・転出理由で圧倒的に多い一方、年代ごとに「結婚」、「親や子との同居」などライフステージの変化に関連する理由が見られます。男性は仕事や利便性向上の傾向が強いのに対し、女性は家庭環境や親・子との同居が際立っており、性別や年齢による違いが特徴といえます。

こうした状況を踏まえると、住居地の選定には生活の基盤となる仕事の有無が大きく影響し、働く人にとって快適に仕事ができる環境や、事業者が事業活動を進めやすい環境が整っていることが重要な要素であると推察されます。具体的には以下のような施策を充実させることが重要だと考えます。

・産業インフラの整備
・企業の経営基盤の強化と新たな地域産業の創出
・多様な働き方の推進と人材確保・育成
・安全で安心できる暮らしやすいまちの強靭化
・便利で快適な住みよいまちの形成

本市では、令和 8 年度からスタートする第 6 次豊橋市総合計画後期基本計画のもと、このような施策を着実に実行していくことで、今後の人口減少を見据えた持続可能なまちづくりを進めていきます。